

過去の万博活用事例（島根県浜田市）

1. 1970年日本国際博覧会(大阪万博)への出演

「お祭り広場」最大の催し物として企画された「日本の祭り」プログラムの中で、「石見神楽・大蛇退治」を上演。初めて多数(13頭)の大蛇(蛇胴)が出現し、中には火を噴く大蛇もあった。これを機に日本全国・世界で石見神楽の認知が始まった。



1970年大阪万博
大蛇

2. 神楽ブームの隆盛と地域での浸透

- ・1970～1978年 「西日本神楽大会」開催(浜田市)

この時期から子供神楽の活動も盛んとなる。

- ・1981年 「浜田石見神楽社中連絡協議会」設立(14社中)

観光協会が窓口となり社中合同チームを結成し、同年「神戸ポートピアアイランド博覧会」等以後の博覧会にも出演。海外公演も頻繁に実施。
2021年発足の女性だけの神楽同好会「舞姫社中」も同協議会が指導。

- ・2005年 「地域づくり総務大臣表彰」(地域振興部門)を受賞(浜田石見神楽社中連絡協議会)

- ・2017年 高円宮殿下記念地域伝統芸能賞(同協議会)



3. 広域での神楽振興の取組

- ・2012年 石見観光振興協議会が観光キャンペーン「なつかしの国石見」で「石見の夜神楽毎日公演」実施。

- ・2012年 「中国地方神楽観光振興協議会」設立(中国運輸局、中国5県知事ほか)

- ・2019年浜田市をはじめとした石見9市町を舞台とするストーリー「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」が日本遺産に認定



日本遺産「石見地域で伝承される神楽」

石見神楽公式サイト

<https://iwamikagura.jp/>

